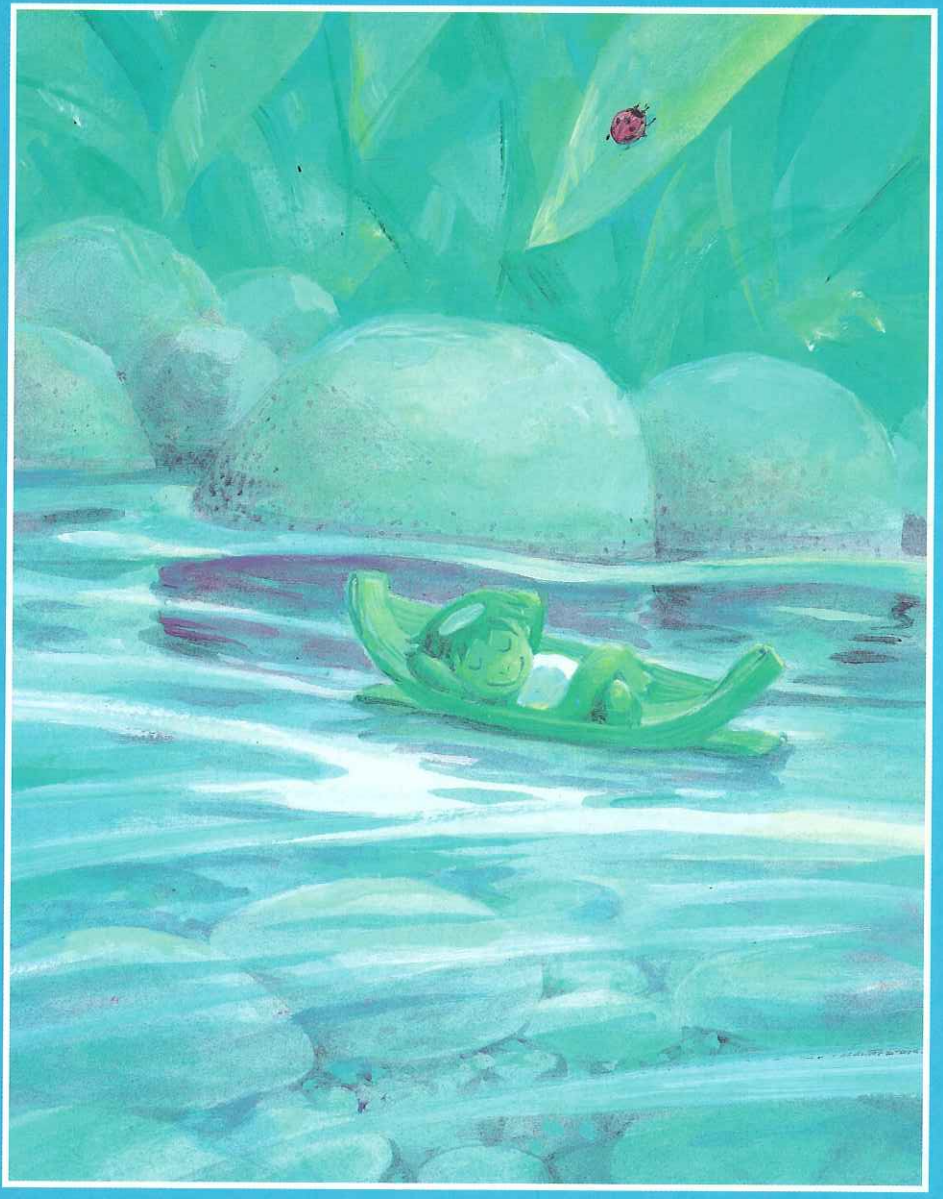
川の本



NO. 27 1989年夏の号

レッツ ゴー 川へ！

夏の川は　とても早起きだ。
ジョギングのお父さんに　おはよう　とささやく。
釣糸をたらすおじいさんにも　おはよう。
やがてこどもたちがくる。犬がくる。
サイクリングのおねえさんたち。一列になって。
みんな　みんな　おはよう。

夏の川は　元気いっぱい　流れている。
おーい。そこの　絵をかいてるおにいさーん　こんにちはー。
あ、ぼうやたち。そっちは深いよー。気をつけてー。

青空が　あんまりまぶしくて
風が　あんまりやさしくて
川は うとうと。
ゆめにみるのは　ふるさとの山。

＊

パッシャーン。なんだボールかぁ。
川は また元気に流れる。

川へ遊びにいくときは親に行先をいってから、3、4人の仲間といこう。そのほうが楽しいし、安全だ。

川で遊ぶときは上流の大雨や、ダムからの放水などで、水が急にふえることもあるので気をつけよう。

楽しい水音をたてて　夏の川は流れている。
「もっとそばに来て。目をこらして。」川はよびかける。

草の茂みで　テントウムシの赤ちゃんがうまれたよ。
カマキリのおやじは　おあいそ笑い。
「どう　ぼくのこの　みどりのスーツ」　バッタが高くとんだ。
露でうがいする　アマガエル。合唱コンクールが近いんだ。

きらきら光る水の中では　水泳大会がはじまった。
「オイカワ君　先頭にでました。ウグイ君　ヨシノボリ君　つづいてターン」
みずごけの石の上で　採点しているカワニナ。
チャッチャッチャッ。チアーガールのメダカたち。

水のにおい。砂利のちくちく。こけのぬるぬる……。
おおきくなっても　わすれない
川の思い出　いっぱいつくろう。

水の中には魚のほか、ミズスマシ、ゲンゴロウ、
とんぼの赤ちゃんのヤゴなどいろんな昆虫も住んでいる。

メダカ

川のほとりには、ヨシやエノコログサ、ススキなど、
さまざまな植物がはえている。そこは昆虫たちの天国だ。
はじめてであう昆虫たちもきっといるよ。

ウグイ

オイカワ

ヨシノボリ

カワニナ

いつのまにか　夕方の風がふいている。
夕焼けが　川原を　オレンジ色にそめている。
気の早い星が　ひとつ。
――おやすみ　川よ。
あした　また　あそぼうね。

みんなの川をみんなで大切に！

どじょっこふなっこ

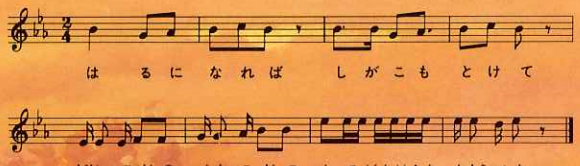
東北わらべうた
岡本敏明　作曲

一、春になれば　しがこもとけて
どじょっこだの　ふなっこだの
よるがあけたと　おもうべな

二、夏になれば　わらしこおよぎ
どじょっこだの　ふなっこだの
鬼ごきたなと　おもうべな

三、秋になれば　このはこおちて
どじょっこだの　ふなっこだの
ふねこきたなと　おもうべな

四、冬になれば　しがこもはって
どじょっこだの　ふなっこだの
天井こはったと　おもうべな



日本音楽著作権協会（出）許諾第8970453-901号

あめふりくまのこ

鶴見正夫 作詞
湯山 昭 作曲

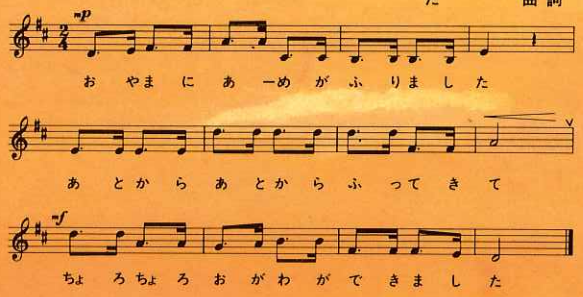
一、おやまに あめが ふりました
あとから あとから ふってきて
ちょろちょろ おがわが できました

二、いたずら くまのこ かけてきて
そうっと のぞいて みてました
さかなが いるかと みてました

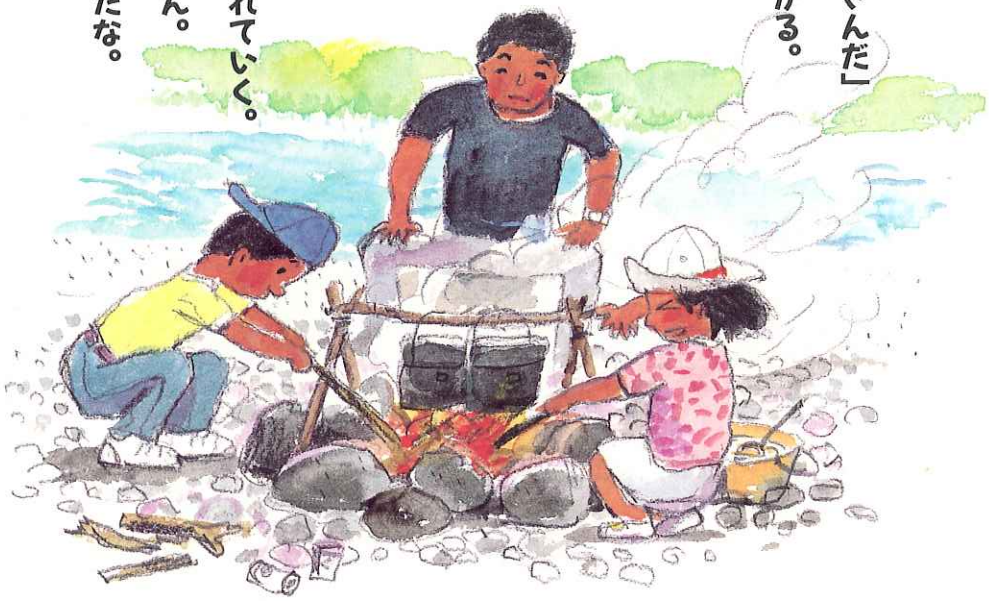
三、なんにも いないと くまのこは
おみずを ひとくち のみました
おててで すくって のみました

四、それでも どこかに いるようで
もいちど のぞいて みてました
さかなを まちまち みてました

五、なかなか やまない あめでした
かさでも かぶって いましょうと
あたまに はっぱを のせました



「さあ、ここではんごうすいさんだ」
先生のこえに、かんせいがあがる。
水をくんでくる子、
川原の石でかまどをつくる子
たきぎを集める子・・・。
「先生、ついでにゴミも
ひろっちゃおうよ」
コウスケがいった。
「お、いいこと言うねえ」
白いけむりが、風にのって流れていく。
きれいな川原で　炊いたごはん。
母さんにも　たべさせたかったな。



河川愛護月間

7月1日→31日

8月1日は水の日です

河川環境管理財団は
みんなに愛される川であるように、こんな仕事をしています。

＊よりよい水辺のプランニング
＊楽しく安全に遊べる川づくり
＊川をきれいに、川を愛する心を育ぐくむ運動
＊未来の水辺を考えた調査や研究
＊せせらぎ・ふれあい基金

監修　建設省河川局
財団法人 河川環境管理財団
(〒160) 東京都新宿区新宿5丁目17番5号
TEL. (03) 200-5677(代表)